

(令和7年5月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	5月の総入荷量は、中旬以降、野菜の生育に適した気候が続き、前年同月比で3%上回った。また、野菜全般の長引く高値の影響から需要が減少し、特に結球類において単価が平年を大きく下回り、総取扱金額は前年同月比で10%下回った。この先、梅雨の本格的な時期を迎えるため、曇雨天の程度によっては不安定な入荷となることが懸念される。 6月は、野菜では、賀茂なすや万願寺とうがらし等の果菜類の入荷が増え、青梅が最盛期を迎える。果実では、桃の入荷が始まり、桜桃やすいか等の入荷が増える。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月並みであったが、単価は14%下回った。 根菜類の入荷量は前年同月比で12%下回ったが、生育期の低温の影響により品質が低下し、単価は20%下回った。 葉菜類の入荷量は前年同月比で3%上回り、単価は36%下回った。 果菜類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は14%下回った。 土物類の入荷量は前年同月比で3%上回ったが、単価は8%上回った。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で16%上回り、単価は12%下回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で33%下回り、単価は22%上回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で4%上回ったが、単価は前年同月並みであった。 いちご類の入荷量は前年同月比で15%上回ったが、競合品目が少なく需要が高まり、単価は5%上回った。 メロン類の入荷量は前年同月比で11%上回り、単価は5%下回った。 すいか類の入荷量は前年同月比で4%下回ったが、単価は前年同月並みであった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長だいこん 西洋にんじん	香川、千葉、長崎、和歌山、鹿児島などから入荷した。入荷量は前年同月比で２０％下回ったが、生育期の低温の影響により品質が低下し単価は３３％下回った。 徳島、長崎を中心に、熊本、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で８％上回り、単価は２６％下回った。
【葉菜類】 はくさい キャベツ ほうれんそう レタス	茨城を中心に、長野、岡山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１２％上回り、単価は５１％下回った。 愛知、京都を中心に、兵庫、茨城などからも入荷した。入荷量は前年同月比で９％上回り、単価は６２％下回った。 岐阜、茨城を中心に、福岡、京都、滋賀などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は９％下回った。 長野を中心に、兵庫、山梨などからも入荷した。入荷量は前年同月比で２３％下回ったが、リーフレタス等の代替品の増加から需要が減少し、単価は３４％下回った。
【果菜類】 きゅうり	宮崎を中心に、滋賀、福岡、佐賀、高知などからも入荷した。入荷量は下旬に天候の影響から春冬作の出荷が終了したため、前年同月比で７％下回ったが、中旬まで入荷が潤沢であったため、単価は１５％下回った。

なす	高知を中心に、岡山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で11%下回ったが、不安定な入荷御影響で需要が減少し、単価は17%下回った。
とまと	熊本を中心に、福岡、三重などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は8%下回った。
ピーマン	宮崎、高知、茨城、大分などから入荷した。入荷量は前年同月比で14%上回り、単価は28%下回った。
【土物類】	
ばれいしょ (メイクイン含む)	長崎を中心に、北海道、鹿児島、熊本などからも入荷した。入荷量は前年同月比で5%下回り、単価は11%上回った。
たまねぎ	兵庫を中心に、長崎、北海道などからも入荷した。入荷量は例年より生育が遅れていたこともあって、前年同月比で13%上回ったが、3月、4月の数量不足の影響から需要が高まり、単価は17%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏かん	熊本、和歌山、福岡を中心に、愛媛、香川などからも入荷した。入荷量は前年同月比で43％下回り、単価は16％上回った。
富士 (サン富士含む)	青森から入荷した。入荷量は前年同月比で4％上回り、前年同月並みであった。
いちご	福岡、大分、熊本、佐賀を中心に、愛媛などからも入荷した。入荷量は例年より生育が遅れていたこともあって、前年同月比で15％上回ったが、競合品目が少なく需要が高まり、単価は5％上回った。
アールスメロン	静岡、高知、熊本を中心に入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は9％下回った。
大玉すいか	熊本を中心に、長崎からも入荷した。入荷量は前年同月比で9％下回ったが、単価は前年同月並みであった。